

アカイカの群別分布と水温環境について (抄録*)

天 野 勝 三

(青森県水産試験場)

アカイカは成長の異なる群の分布領域が時間的に重なる。アカイカ漁場探索に際してもっとも手軽に目安となるものは水温の水平・鉛直分布である。ここでは成長群別の分布と環境の対応について若干の検討を行った。

用いた資料

1976～84年の各試験研究機関で実施した977操業分のCPUE (釣機1台1時間当り漁獲尾数) 及びその際の0 m, 100 m水温並びにアカイカ外套長組成の資料

結果及び考察

1) アカイカの群分け

主要3群の成長モデルより6～10月各旬の群別外套長の設定範囲を決めた。

2) 海域別外套長推移

150°E以西と150°～160°Eの2海区を設定した。これによると、外套長組成は5～6月にはそれぞれの海域で単峰型、8～10月には多峰型になる。

3) アカイカの成長群 CPUE 比率の推移

釣漁場における盛漁期(8～10月)にはL, S, SSの3群が漁獲の大部分を占め、漁獲割合はL=S>SSとなっている。

4) 海域別・群別の CPUE と 0 m, 100 m水温の関係について

150°E以西海域では、表面水温は5～8月にかけて20～22℃、10月下旬には14～15℃に主分布がみられ、100 m水温でみると主分布域は2つの水温帯に分離している。

150°～160°Eの海域では、表面水温は6～8月にかけて18～23℃、9月下旬には16～17℃に主分布がみられ、100 m水温でみると150°E以西海域と同様に主分布域は2つの水温帯に分離している。

* 詳細については青森県水産試験場(1986)イカ釣漁場開発調査資料 XI, p.13～23を参照のこと。